

「異文化」の理解を目指した研修旅行 (V)

—— “島根 (奥出雲・出雲) 鉄の文化史” の実地研修 ——

A Study of Field Trips to Understand Different Cultures (V)

—— field trip to study history of iron culture in Shimane (Okuizumo・Izumo) ——

戸田利彦・秋枝(青木)美保

Toshihiko TODA and Miho AKIEDA (AOKI)

In the last paper, a small field trip to study regional cultures held during the Japanese language and culture courses of a university was analyzed and problems were summarized for future plans and practices of study camps and field trips. This paper focuses on a field trip to study regional cultures. It is planned and put into practice for the purpose of understanding cultures of Okuizumo district and Izumo district in Shimane Prefecture. Characteristics of it are summarized as follows.

- 1 This field trip is a result of two field trips in Kyoto, a study camp in Hiroshima City, a small field trip in Hiroshima Prefecture and a field trip in Setouchi.
- 2 Regional study concerning history of iron culture in Shimane is stressed in this trip.
- 3 This field trip includes three small lectures by local speakers.
- 4 This field trip is planned and put into practice mainly by students who are the members of Hijiya University Japanese Language Culture Society.

Practices of a field trip are analyzed based on questionnaires filled out by the participants. Then, problems are summarized for future field trips.

はじめに

今年、宮崎駿監督作品の映画『もののけ姫』の海外版(英語版)が北アメリカに供給されることになった。この作品は、3年前の1997年に、空前の観客を動員し、ロングランを続けた。その模様は、1997年9月14日付けの『読売新聞(朝刊)』の社会面の記事に次のように書かれている。

日本人の12人に1人が見た一大ヒットを続けているアニメ映画『もののけ姫』(宮崎駿監督)の観客数が14日にも、1千万人の大台に乗ることが13日、配給元東宝のまとめで分かった。配給収入でも、ステイブ・スピルバーク監督『ジュラシック・パーク』(1993年)の83億円を抜き、『E・T』(82年)の96億円に次いで、歴代二位となる見通し。『もののけ姫』は7月12日に封切られ、今月11日までの観客数は965万人、配収は80億円に達した。この三連休で約40万人の観客が見込まれ、一千万人突破は確実となった。

このアニメーション映画の主要な舞台が、鉄をつくる“タタラ場”であり、そこに登場する重要な人物群が労務者、炭焼き、砂鉄採り、運搬人などの製鉄集団としての“タタラ者”であり、今回の実地研修は、この“タタラ”を主要なテーマとして実施されることになった。研修のネーミング

‘土地のたからまるかじり 第2回 島根 鉄学の道探訪～「もののけ姫」の舞台を訪ねて～（中国地方の金属文化について）’の中に「もののけ姫」が出てくるのはこのような事情による。実際に事前研修の一環として、研修の動機付けにこの映画の視聴を取り入れたが、“タタラ”という一つの地域文化が、単なる知識の領域を越えた‘生きた自然と人間の歴史文化（特に、鉄と人間の文化）’として、かけがえのない人類普遍の価値を持つことを再認識させられることになった。

今回の日本語文化研修旅行は、全員参加形式の学校（日本語文化専攻）行事から自由参加形式の学会（日本語文化学会）行事に移行して2度目のものである。昨年度実施した第1回の研修^{注1)}の問題点をふまえ企画・運営を行なったが、より充実した実地研修にするための新たな視点を発見することができた。そこで、本稿では、その計画から実施に至る経過及び結果の報告を行い、研修旅行のあるべき姿について考察することを目的としたい。

Ⅰ. 実施までの経緯

アニメ「もののけ姫」が非常な人気となり、世界的にも興業成績を上げていることから、日本の製鉄文化の重要な位置を占める中国山地の製鉄の遺跡を辿りたいという思いが膨らんでいった。さらに歴史をさかのぼると、古代の出雲地方が青銅器文化を持っていたことも思い合わされ、大きく見れば、出雲の金属文化についてみて行こうということになった。ちょうど、コミュニケーション学科の島津邦弘教授が中国山地の製鉄文化について著書があり、道先案内をしてもらうことになった。

実施前に「もののけ姫」のビデオと、実際のたたら製鉄の作業時のビデオを上映し、問題点の発見に務めた。さらに島津先生に事前の講義をお願いし、中国地方における「たたら製鉄」の歴史について概要を話していただいた。

その他、恒例の「旅行しおり」資料編の編集作業を、学会役員を中心に行った。それは以下の通りである。

1. 「もののけ姫」における「たたら製鉄」
2. 製鉄の歴史（特に技術史）
3. 鉄の神「金屋子神」
4. 土地の歴史（戦国時代における中国地方の武士の、銀山をめぐる争いについて、出雲地方における神話と古代史について）
5. 土地の歴史（「萱谷たたら」について）

資料を求めて、他大学の考古学研究室を訪ねたグループもあり、資料調査は本格的に行われた。

Ⅱ. 実施内容とその問題点^{注2)}

今回は研修地がいずれも山中にあり、また一つ一つの研修地が離れてあるため、バスツアーにならざるをえなかった。一日目の研修地は島根県横田町の「絲原記念館」と「たたらと刀剣館」、鉄の歴史村と銘打つ吉田村の「山内生活伝承館」と「田辺家住宅」であった。それぞれの研修地では、土地の専門家に説明をお願いした。

二日目は大社町の「出雲大社」、荒神谷遺跡を展示する「出雲の原郷館」を見学した。出雲大社は個人研修とし、境内を自由に見学した。展望台に登って「国引き」の海岸を見下ろしたり、末社を見て回ったり、神話のふるさとを体感した。「荒神谷遺跡」では、発掘現場で、発掘時を再現した展示を見ながら、その発掘の意味について、土地の専門家から説明を受けた。

いずれの研修地においても、土地の専門家の熱心な説明によって、研修の実は大いに上がったと言える。特に「山内生活伝承館」においては、その土地出身の若い研究者の話聞くことができ、学生にとっては印象に残ったものと思われる。

ただ、当初予定していた、行けなかった「金屋子神社」の研修が残ったことが残念であった。製鉄の技術史や、その機械的な仕組みはよく理解できたが、製鉄にまつわる文化事象の部分が研修の内容から抜け落ちることになった。神話に興味を持っている学生が多かっただけに、鉄にまつわる神話についてももう少し聞くような場面がほしかった。ただ、「金屋子神社」は場所が観光ルートから離れており、時間の都合上、割愛せざるをえなかった。

Ⅲ. 実施後の冊子の編集—「土地のたから まるかじり」第2号

研修の際に、土地の専門家には冊子への原稿をお願いした。吉田村「鉄の歴史博物館」館長坂本令治氏は「鉄の歴史村」として吉田村が生まれ変わった経緯についてレポートされ、「絲原記念館」の運営委員高橋一郎氏は、和鉄の歴史と鉄師絲原家の歴史についてレポートされた。また、荒神谷遺跡については、島根県簸川郡文化財保護審議委員池田敏雄氏が、青銅器出土と神話の関係についてレポートされた。

その他、参加教員は「もののけ姫」と鉄の文化の関わりについて小稿を執筆し^{注3)}、また、島津教授は中国地方の鉄の文化と過疎問題の関係について、問題意識の原点と言える取材体験を通して論説を展開された。また、参加学生の中から研修内容について、それぞれの視点からのアプローチによるレポートが寄せられた。

研修に臨む前の問題点の絞り込みが今ひとつで、学生の研修も地域文化の深く詳細な研究という面ではもう一つ積極性に欠ける点があった点是否めない。事前研修のあり方にもう一つ工夫が臨まれる。

Ⅳ. 研修旅行及び研修合宿についてのアンケート調査

(1) 調査の目的

1999年度日本語文化専攻研修旅行への参加学生に対して、研修旅行の内容に対する評価・意見と研修合宿についての意見を主として求めるアンケートを実施した。

(2) 調査の方法

帰りのバス内で、調査用紙^{注4)}を配布し、単なる評価点を示すだけでなく、今後の改善へ向けてのコメントを期待している旨を付言した。

(3) 回収率

当日中に41名中38通（92.7%）の回収を得た。

(4) 研修旅行に対する評価・意見と研修合宿についての意見

(Ⅰ)(Ⅱ)は研修旅行に対する評価、(Ⅲ)(Ⅳ)は研修旅行に対する意見、(Ⅴ)(Ⅵ)は研修合宿についての意見をそれぞれ求める項目である。

(Ⅰ)(Ⅱ)の評価については、5段階評価（1～5）を得点化し、ヒストグラムを作成すると共に、平均値及び標準偏差（得点のバラつき具合を示す数値）を算出した（図—1）。尚、図中の“AVR.”は平均値、“S.D.”は標準偏差を示す。

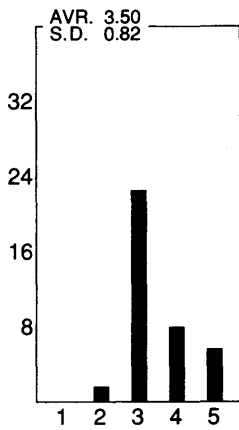
(Ⅲ)(Ⅴ)については、選択式による意見の集計結果を円グラフで示した（図—2／図—3）。

[研修旅行に対する評価]

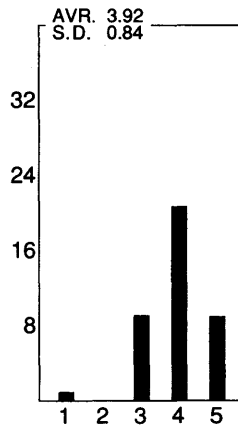
図-1

(1) 研修旅行についての自己評価

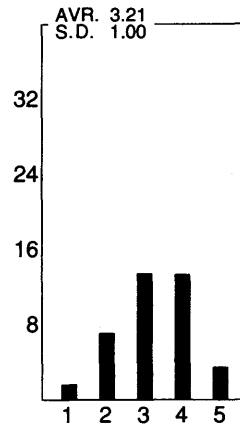
[1日目午前]
横田町絲原記念館



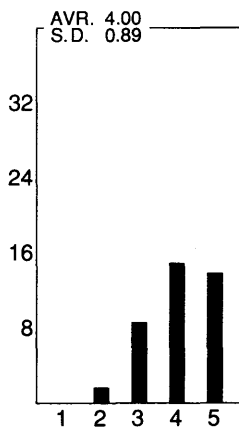
[1日目午前]
横田町奥出雲たたらと刀剣館



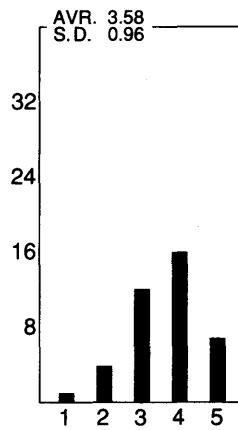
[1日目午後]
吉田村(鉄の歴史村)



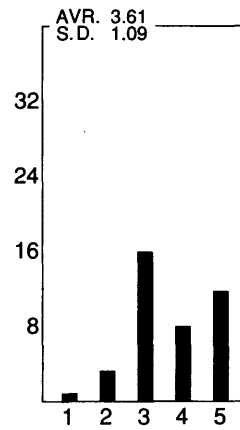
[2日目午前・午後]
大社町(出雲大社及び周辺地区)



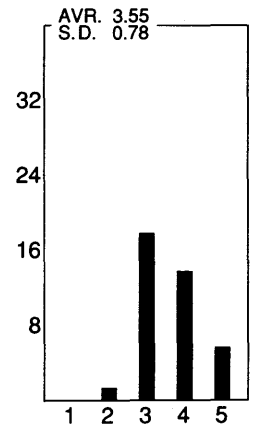
[2日目午後]
荒神谷遺跡・荒神谷史跡公園



イベント以外の自由時間

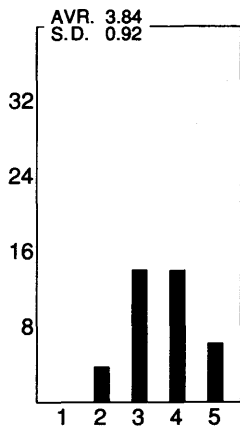


総合的達成度

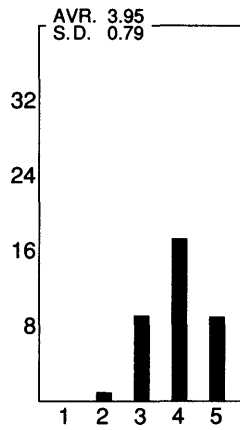


（II） 研修旅行のイベント企画について

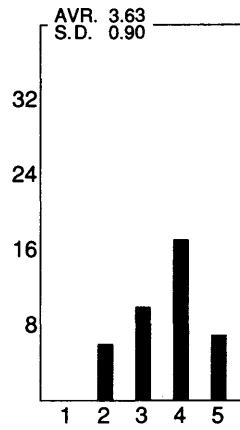
〔1日目午前〕
横田町糸原記念館



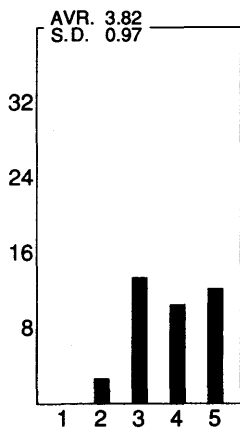
〔1日目午前〕
横田町奥出雲たたらと刀剣館



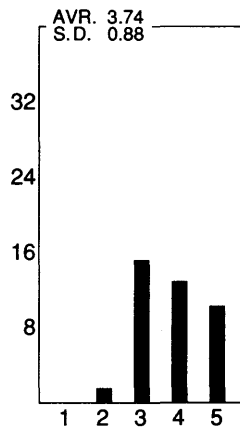
〔1日目午後〕
吉田村（鉄の歴史村）



〔2日目午前・午後〕
大社町（出雲大社及び周辺地区）



〔2日目午後〕
荒神谷遺跡・荒神谷史跡公園



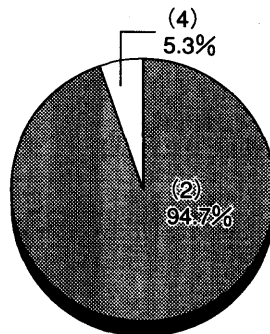
【研修旅行に対する意見】

図一 2

(Ⅲ) 研修旅行の日時・日程・費用・場所について

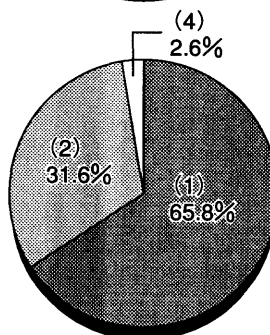
① 〈時期〉

- (1) 年末・年始を外した冬休み中に実施するのがよい。
- (2) 今回のように春休み中に実施するのがよい。
- (3) 夏休みの終わりに実施するのがよい。
- (4) 夏休み始めの集中講義終了後（8月7日前後）に実施するのがよい。



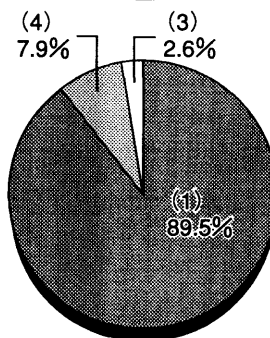
② 〈日程・費用〉

- (1) 今回のように1泊2日でよい。
- (2) 費用を2万円程度自己負担しても2泊3日ぐらいがよい。
- (3) 〃 3万円 〃 3泊4日ぐらいがよい。
- (4) 日帰りでよい。



③ 〈場所〉

- (1) 今回は奥出雲・出雲地区でよかった。
- (2) 福山（備後）地区の方がよかった。
- (3) 岩国（周防）地区の方がよかった。
- (4) 萩・津和野地区の方がよかった。

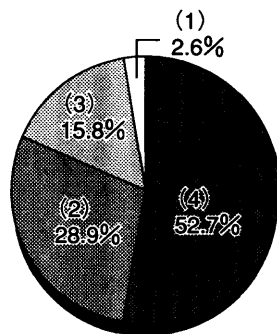


【研修合宿についての意見】

図一 3

(Ⅳ) 研修旅行と研修合宿について

- (1) 費用が安くすむところ（例 広島市内公共施設1泊2日3000円）で、研修合宿を全員参加で行う。
- (2) 費用が比較的にかからないところ（例 広島県内及び周辺2泊3日2万円）で、研修合宿を全員参加で行う。
- (3) 費用はかかる（例 京都2泊3日5万円／東京3泊4日7万円）が、研修合宿（旅行）を全員参加で行う。
- (4) 全員参加の宿泊をともなう研修合宿は特に必要ない。



(5) 結果の考察

① 研修旅行に対する評価

まず、学生の自己評価について考察しておきたい。〈総合的達成度〉の平均値が3.55となっているように、学生はかなりの成果があったと考えている点をおさえておきたい。昨年度実施した「瀬戸内（福山・倉敷）国際交流史」をテーマとした研修旅行の〈総合的達成度〉の平均値は3.20であったが、それに比べても数値的には高い。標準偏差0.78と分散が小さく、評価を3あるいは4とした学生が多い。今回の研修旅行のタイトルは‘島根 鉄学の道探訪～「もののけ姫」の舞台を訪ねて（中国地方の金属文化について）～’であり、目的として、‘島根県の奥出雲・出雲の古代から中世にかけての日本語文化に関わる民俗資料及び文化資料を、実地踏査し、地域文化を通して専門領域へのアプローチを行う’ことをあげている。「たたら製鉄」「出雲大社」「荒神谷遺跡」などの重厚な歴史的遺産と宮崎駿監督作品の人気映画「もののけ姫」という現代的な文化の交錯するところが、学生たちのロマンを掻き立て、専門研究への興味や関心を大いに喚起したのではあるまいか。また、近年「たたら製鉄」の特殊な技術が見直されたり、研修旅行に前後するように「出雲大社」の巨大神殿の柱が発掘されたり、「荒神谷遺跡」の埋蔵品の謎がいまだに論議されていたりと歴史的遺産そのものが、現代的な話題性に富んでいる点も見逃せない。さらに言うならば、今回の研修地域が、政界の影の実力者竹下登元首相の出身地であり、衆議院議員選挙を数か月後に控え、自身の体調のこともあり出馬するの可否かの注目が日本一人口の少ない県の片田舎に集まっていたという事実とその背景としての竹下氏と研修先の絲原家との関係など、時機を得た話題によって、過去と現在の連続性を改めて認識できた点も幸運であった。

一方、〈イベント以外の自由時間〉の平均値が3.61とさして高くない（昨年度は3.91）要因として、まず、バスによる研修地域への長距離の移動と、研修地ごとの頻繁な移動があげられよう。昨年度は、福山・鞆の浦・倉敷など都市及びその近郊を研修地域としていたため、研修地も集中していたが、今回は、横田町・広瀬町など山村が主たる研修地域であったため、研修地も分散しており、バスに揺られている時間が長く、体力的にきつい部分があった点是否定できない。また、宿泊所の国民宿舎の設備が昨年度と比べて古いこともあり、参加者の大半を占める女子学生（38名中31名）を中心に満足度が高くなかった点も理由としてあるようである。

五つのイベントを比較してみると、平均値4.00とあるように、学生は〈大社町（出雲大社及び周辺地区）〉に成果を得たと感じている。これは、昼食時間も含めてではあるが、午前10時から午後2時までの4時間を余裕をもってなおかつ各自の興味・関心に基づいて自由に研修できたことによる。出雲大社を中心に研修エリアが比較的コンパクトにおさまっていたことや、当日が暖かい早春の晴れの日で散策が心地よく行なえたことも高評価の一因であろう。さらに言うならば、専門研究とはやや離れるものの、そばやワインを通して出雲地域の食文化を堪能したり、土地の人のさりげない会話の中に当地の風土を感じたりと生の地元文化を直接経験できた点も見逃せない。また、〈横田町奥出雲たたらと刀剣館〉に対しても、平均値3.92と評価が高い。このイベントは、今回の研修旅行のキーワードとなった‘たたら製鉄及びその関連文化’を集約したものであり、特に、ほぼ実物に近い‘たたら構造模型’とそれについて熱心かつ面白く説明してくれた講師に対して参加学生は感銘を受けたようである。「かわりばんこ」という言葉が、‘たたら文化’と関連していることなどを聴き、改めて言葉と文化の接点に触れ、問題意識を触発された学生もいた。一方で、〈吉田村（鉄の歴史村）〉は、平均値3.21と今回の五つのイベントの中では評価が最も低い。これには、いくつかの理由があげられるが、最大の理由は時間的に余裕がなかったことであろう。前述のように、今回の研修旅行はバスによる移

動やその乗り降りに時間が取られることが多く、〈横田町奥出雲たたらと刀剣館〉あたりから徐々にスケジュールとのずれが大きくなりはじめ、結果として〈吉田村(鉄の歴史村)〉での時間を短縮せざるをえなくなった。また、〈横田町奥出雲たたらと刀剣館〉とは‘たたら製鉄’を中心に内容的に重複する部分が多かった点も原因としてであろう。‘鉄の未来科学館’は‘鉄の文化’を世界的視点から捉えようとしている点が差異としてあったが、‘たたら製鉄’そのものを中心に扱っていた前者の後では、興味・関心の拡大という企画者側の期待通りにはいかず、焦点の拡散につながってしまった。実際の‘たたら場’としての‘菅谷たたら’の見学では、建物内の気温が低い中での説明となり、時間も比較的長かったせいか、立ったままの状態で生理的・肉体的にきつい部分もあった点是否めない。‘田部家住宅’や‘山内生活伝承館’など興味深いところではあるが、内容面での重複による一種の精神的だれと午後の疲労感の中で、時間を気にしながらの研修にはやや無理があったようである。とは言うものの、‘たたら文化’そのものに興味がある学生にとっては、何度どこを見ても面白いようで、標準偏差がちょうど1.00とあるように、評価はいたって標準的であった点は見落としてはならない。〈横田町糸原記念館〉〈荒神谷遺跡・荒神谷史跡公園〉は、それぞれ平均値3.50、3.58とあるように、比較的高い評価を得ている。前者では、特に、記念館の方の説明に好印象を持った学生が多いようである。今回の研修旅行の最初の訪問地ということもあり、学生たちは意欲的に館内及び周辺を見学していた。後者は、主たる研修テーマの‘鉄の文化’と直接関わるものではないが、‘謎に包まれた大量の銅剣’の発掘現場と関連の遺物を展示する‘出雲の原郷館’で、古代出雲の金属文化のロマンへおもしろいを馳せた学生も多かったのではなかろうか。考古学への興味・関心の有無に関わらず様々な学生から評価を得ているのは標準偏差が0.96であったことに表れている。

以上を総括するならば、“バスによる移動は少しきつかったが、‘鉄の文化’としての‘たたら製鉄’についてかなり専門的に研修できたし、出雲大社や荒神谷遺跡を通して‘古代の出雲文化’へのロマンを大いにかきたてられたし、宿舎にはやや不満は残るものの気の合う友人と共に有意義な時間を過ごし、意欲を持って研修に参加できた”という参加学生の平均像を思い描くことができよう。

日本語文化学会の研修旅行役員(学生及び教員)が中心になって考案した研修旅行のイベント企画に関しては、五つのイベント企画の平均値が3.80となるように、参加学生はかなり高い評価をしている。標準偏差の平均値も0.89と比較的分散が小さい。前述の〈総合的達成度〉の3.55と勘案すると、参加学生は、企画そのものの充実度をかなり認めた上でその完全消化のためには自らの意欲と行動の質の向上が必要なことを認識している結果となっている。〈吉田村(鉄の歴史村)〉は、参加者の自己評価と同様にそれほど評価は高くなく、平均値は3.63にとどまっている。〈荒神谷遺跡・荒神谷史跡公園〉もほぼ同程度の評価で、平均値3.74である。〈横田町糸原記念館〉及び〈横田町奥出雲たたらと刀剣館〉は、いずれも参加学生の自己評価よりも高い評価となっている。研修地や研修施設、あるいは講師による説明などが評価されていると言えよう。一方で、〈大社町(出雲大社及び周辺地区)〉は、自由研修の形式であったせいもあり、平均値3.82と評価が逆転しているが、イベント企画そのものに不満があるということでもなさそうである。

個人研修ではなく集団研修の形式には、親睦以外に“集団で行く”ことの必然性がほしい。その点を考慮して昨年は“地元講師による講演”を各1時間程度で三つ設定し、かなりの評価を得たが、えてして講師の話を一方向的に聴くというかたちになりがちな点是否定できない。その点への配慮として、今回は文化施設そのものの持つ内容に即してより簡潔にかつ自由に質問

ができるかたちとした。その結果、現地でのいわば“立ち合い説明会”としてイベント企画の中に溶け込むかたちとなり、いわゆる講演会としての独立した企画にはなっていないが、総じて参加学生の反応はよかった。従来の講演は、本学教員で‘たたら製鉄’に詳しい島津邦弘教授による事前研修及び研修中のバス内での講義によってかなり補われた点も付記しておきたい。今後もしなんらかのかたちで“地元講師による講演”は企画に入れていきたいものである。

一方で、基本的に集団研修であるからこそ、参加者個人の自主性を最大限に尊重する姿勢も求められよう。そのためには、参加者の個別の知的欲求を満たし得るだけの多様な地域文化を包含し、かつそれらを詳細に紹介してくれる文化施設を有する場所を研修地として調査・発掘していくことが大切である。教員がアドバイスするのは当然であるが、企画係となった学生がいくつかの地域を吟味・検討した上で、学会員へのアンケートを実施するなどして研修地を決定していきたいものである。

② 研修旅行に対する意見

ここでは、〈時期〉〈日程・費用〉〈場所〉についての全体的な意見を確認した上で、個々の意見・コメントの中からいくつかを取り上げ考察しておく。

〈時期〉としては、今回のように“春休み中”が適当と考える学生が94.7%と大半を占める。残りが“夏休み始めの集中講義終了後”である。参加学生自身の間でも研修旅行は学年末という意識が芽生え、年中行事の一つとして認知されはじめているようである。現実問題として実施時期は簡単に変更することは難しいであろう。

〈日程・費用〉に関しては、今回のように〈1泊2日〉が65.8%、〈2泊3日2万円〉が31.6%、〈日帰り〉が2.6%である。昨年度と同様の調査では、〈2泊3日2万円〉が11.1%にすぎなかったことを考えると、費用はかかっても日程の延長を希望する参加学生が増えてきている感がある。今回の研修が日程的にかなりきつかった部分も影響してはいるが、研修旅行が多少なりとも成熟してきたことの表れととることもできまいか。

〈場所〉については、〈今回は奥出雲・出雲でよかった〉とするものが89.5%で、大多数の参加学生が研修地に関しては好意的であり、最初から納得した上で参加していることがわかる。昨年度と同様の調査で実施場所に次いで多い15.6%の希望のあった同地区を選択した点も支持率を高めた要因と言えよう。一方で、昨年の実施場所であった〈福山（備後）地区の方がよかった〉とするものが皆無であり、これまで実施場所として選定されたことのない〈萩・津和野地区の方がよかった〉とするものが7.9%、〈岩国（周防）地区の方がよかった〉とするものが2.6%いることは、参加学生にはいわゆるリピーターが多く、少なくとも在学中の4年間は毎年実施場所を違ったところにしてほしいという希望がうかがえる。〈場所〉の選定には、当然のことながら〈時期〉〈日程・費用〉などの制約を伴うが、何回かこのような研修旅行を実施し、その結果を分析・検討していく中で最低限四つの基本的なモデルができていくのが望ましいであろう。たとえば、4年後に同じ場所になっても、それらの研修場所にふさわしい研修テーマを策定し、かつ少しずつ社会状況を見据えながら新しい視点を加えていくことによって形骸化は防げるであろう。

以下、研修旅行のあり方についての意見・コメントからいくつかを取り上げながら、その問題点やあるべき姿を探っておきたい。

日程に関しては、「1泊2日にふさわしい時間的にもっと余裕のある日程を望む。」「移動に忙しく見たいところを心ゆくまで見ることができなかった。」「企画全体にもっと自由な時間を設定してほしい。全体研修の中でも自由時間があるとよい。」など、時間的余裕を求める声があっ

た。今回の日程のきつさの主たる要因は、前述のようにバスによる長距離移動と乗り降りによる時間的ロスであるが、もう一つの要因として、研修途上で一部の参加者との合流が連絡不足でスムーズにいかなかった点があげられる。昨年度の研修でも、集合時間への遅れが同様の状況を引き起こしている点は今後の課題と言えよう。自由参加とは言え、集団行動である点を企画者・参加者の双方が再認識し、それぞれ不測の事態をも考慮した日程を企画し、集団の一員としての自覚を持って研修に参加する姿勢が促されねばならない。

研修地や研修内容については、「鉄の文化については何も知らず、事前にしおりを読んだり講演を聴いた程度であったが、実際に行ってみて地元の人が鉄の文化を非常に愛していることや鉄のありがたみを分かってほしいと必死な思いを持っていることが伝わりよかった。」「時々話の内容が深過ぎて分からないところもあったが、たたら製鉄については知識が断然深まったと思う。現地の講師の人の知識の豊富さには驚いた。」「‘たたら’という言葉は聞くことはあったが、どんなものかは知らなかった。実際に体験してみて、島根の人達の鉄（たたら）に対する気持ち（関心）の強さを非常に感じた」「自分自身が今回の研修の目的を十分理解していたとは言えないが、今まで知らなかったことを非常にたくさん知ることができ、とても有意義だったと思う。」「研修を通して様々な体験を積むことができ、これからさまざまなことを研究していく時に役立つと思う」「研修の目的をあまり理解しないままに参加したが、鉄のもとになる砂鉄が東城の川から奥出雲にかけて採られることを知り、製鉄の過程や鉄から刀ができるまでの様子などが、熱心な館内の人達の説明や先生の言葉からいつの間にか理解することができていた。」など、研修地や研修内容に対する肯定的なコメントが多かった。一方で、「宿泊するところは、事前に学生を含めて何人かで下見しておく方がいいのではないか。」「簡易な宿泊施設より、値段は高くなっても、設備のきちんとしたホテルや旅館にした方がいいと思った。」といった宿泊場所を中心とした研修のハード面への要望も見られる。確かに昨年度の宿泊施設と比較すると、今回のものは優れた温泉施設はあるもののやや設備及び警備面で弱い部分があった点是否定できない。費用との兼ね合いが難しいが、‘宿泊場所も地域文化に直接触れる大切な文化接触の場’という視点から、今後の企画の際に十分検討する価値はあろう。

研修の方法に関しては、特に否定的なコメントはなかったが、「たたら製鉄に関して何度も同じことを聴くのは少ししんどかった」「講師の人の説明はすごく分かりやすかったけど、かぶっていたので少し疲れた」「吉田村（鉄の歴史村）では、行く施設ごとに同じことばかり聴いていた気がした。」という‘地元講師による説明’の調整を求める声があった。今回の‘たたら文化’のように研修のテーマを絞った場合にえてして起こりがちな問題として注意が必要である。事前の打ち合わせによって可能な限り調整し、講師にお願いしておくなど、研修の企画者はきめ細かいコーディネーター的な役割を果たす必要がある。「記念館の館長さんが質問に全部答えてくださったのですごくと思った。」「大社町では先生方と行動を共にして出雲阿国の墓をはじめ、バスでは行けないようなところまで散策し、手銭記念館では‘書’について引率の先生から説明を聴くことができとても充実していた。」のように地元の講師や引率教員からの説明を期待し感銘を受けたことをコメントしている参加学生もおり、その分‘人的宝’を有効に機能させるようにしたいものである。このような研修旅行を他の旅行とは一線を画した有意義なものにする上で、この点は重要な鍵を握っていると言ってよかろう。一方で、「事前に自分の研修テーマを一つに絞って資料を検討し、現地ではそれらについて集中的に調査していくことが大切である。」といったコメントもあるように、参加学生の側の問題意識の喚起と絞り込みも研修の成果に大きな影響を与えることも忘れてはならない。

以上の考察を通して明らかになった今後の課題は、‘長距離移動を伴う場合の日程の弾力化’

‘研修テーマの絞り込みに伴う内容の重複の調整’ ‘文化接触の場としての宿泊場所及び施設の選定’ ‘参加学生自身の研修テーマの意識化と絞り込み’ ということになろう。今後の研修の企画・運営・実施に是非生かしたいものである。

③ 研修合宿についての意見

全員参加形式の研修合宿については、3年前に1度試みた後は諸事情により実施してはいないが、今回のような自由参加形式で移動を伴う旅行を中心とした研修に参加した学生がどのように考えているかを調査する目的でアンケートを行なった。ここでは、〈研修旅行と研修合宿〉の関わりについての全体的な意見を確認しておきたい。

“全員参加の宿泊をとまなう研修合宿”を行うことに対しては、52.7%の学生が“特に必要ない”としている。一方で、(2)の“費用が比較的かからないところ（例 広島県内及び周辺2泊3日2万円）で、研修合宿を全員参加で行う”が28.9%、(3)の“費用はかかる（例 京都2泊3日5万円／東京3泊4日7万円）が、研修合宿（旅行）を全員参加で行う”が15.8%、(1)の“費用が安くてすむところ（例 広島市内公共施設1泊2日3000円）で、研修合宿を全員参加で行う”が2.6%と、今回の研修に参加した学生の約半数は、“全員参加形式の研修合宿あるいは研修旅行に対して積極的である。しかし、アンケートの母集団を日本語文化専攻の学生全員に広げた場合高い支持が得られるかとなると甚だあやしい。‘専門研究への自主的なアプローチ方法’としての全員参加形式の研修合宿に対して、一般に学生はあまり積極的ではない。

以上の結果が示すように、全員参加形式の研修合宿を単独で行うことは難しいと言えよう。したがって、現実的には、今回のような研修旅行を内容面でより充実させ（例えば、研修旅行前、旅行中に自主研修の計画や成果について発表する時間を設定する）、研修の実をあげると共に、一人でも多くの学生の参加を促していく（例えば、研修地域とテーマを4年間単位であらかじめ設定しておき在学中に一度は参加するように奨励する）ことが大切であろう。今後の検討課題としたい。

終わりに

昨年度の課題として残った‘学生の組織作り’に関しては、今回は比較的うまくいったのではないかと思われる。すなわち、学会の「研究」分科会を、研修コースの企画・運営班、旅行しおり（研修資料の収集と作成）班の二つ分け、学生の役割分担をした点は有効であった。学生役員を中心とした自主的なイベントになっていくよう教員側も適切な指導と助言をしていくことは当然である。特に、‘本学講師による事前研修’や‘地元講師による講演’をコーディネートしたり、現地において‘自らの専門を生かした説明’をしたりすることが期待される役割となろう。また、‘講義・演習を通した研修のテーマに沿った話題の提供’を行なうことも重要であろう。来年度は、前回と同じく私学財団募集の「特色ある教育研究の推進」の企画として認められ、予算がつくことになった。しまなみ海道から松山までを研修地域として設定し、テーマ及び研修地の検討を始めている。今回の結果をふまえて、新たな課題を一つ一つ克服しながら、充実した研修旅行の実現に努めていきたい。

[注]

- (1) 秋枝(青木)美保・戸田利彦「『異文化』の理解を目指した研修旅行(Ⅳ)―“瀬戸内(福山・倉敷)国際交流史”の現地研修―」,『比治山大学現代文化学部紀要』第6号,1999
- (2) 日程表を〔資料1〕として掲載した。
- (3) 本稿の執筆者である戸田・秋枝(青木)は,この研修記録報告書に,それぞれ「地域文化の理解とアニメーション映画―『もののけ姫』にみる“タタラ”―」(P. 31~37),「『もののけ姫』論」(P. 21~30)という小稿を執筆し掲載した。
- (4) 調査紙(B4で2枚)を〔資料2〕として掲載した。

尚,本稿は,「はじめに」「Ⅳ.研修旅行及び研修合宿についてのアンケート調査」「終わりに」を戸田が,「Ⅰ.実施までの経緯」「Ⅱ.実施内容とその問題点」「Ⅲ.実施後の冊子の編集―「土地のたからまるかじり」第2号」を,秋枝(青木)が担当執筆した。

〔資料1〕 日程表

3月14日(火)

- | | | | |
|-------|--------------------|---|----------|
| 7:50 | 広島駅新幹線口 | 集合 | |
| 8:00 | 出発 | (庄原経由) | |
| 10:00 | 絲原記念館(全体研修) | | |
| | 館内見学(1時間) | | |
| 11:00 | 出発 | | |
| 11:30 | 横田町たたらと刀剣館(全体研修) | | |
| | 館内見学(40分) | | |
| 12:10 | 出発 | | |
| 12:30 | 広瀬町金屋子神話民俗館(全体研修) | | |
| | 館内見学(30分) | | |
| 13:00 | 出発 | | |
| | (車中 昼食 弁当) | | |
| 14:00 | 吉田村(鉄の歴史村) | | |
| | 鉄の未来科学館 | ┌──────────┐
│
│
│
└──────────┘ | 見学(1時間半) |
| | 田部家住宅 | | |
| | 山内生活伝承館 | | |
| 15:30 | 出発 | | |
| 17:00 | 簸川郡湖陵町 国民宿舎 国引荘(泊) | | |
| | 部屋へ | | |
| 18:30 | 夕食 | | |
| | ミーティング | | |
| 20:30 | 入浴・自由 | | |

3月15日(水)

- | | |
|-------|------------------|
| 7:30 | 朝食 |
| 9:30 | チェックアウト・出発 |
| 10:00 | 大社町・(出雲大社 駐車場)解散 |

個人研修

- 14:00 (出雲大社 駐車場) 集合・出発
 14:40 荒神谷遺跡 出雲の原郷館 (全体研修)
 15:30 出発 (三次経由)
 18:30 広島駅新幹線口到着・解散

〔資料2〕研修旅行についてのアンケート

※3月15日(水)実施

日本語文化専攻研修行事をより充実したものにしていくために、評価や意見・コメントを聞かせて下さい。

(1) 研修旅行についての自己評価(自分自身に対する評価)

- (a) 以下の基準で、それぞれの項目の1～5の数字に○(マル)をつけ、自己評価をして下さい。
 1 無駄であった 2 あまり有意義でなかった 3 普通 4 有意義だった 5 たいへん有意義だった
 (b) そのような自己評価をした理由を中心にそれぞれの項目にコメントを書いて下さい。

〈1日目〉

- ①【午前：横田町絲原記念館(絲原家の資料、美術工芸品など)での館内研修 [約1時間]
- 〈自己評価〉 〈コメント〉
- 1 2 3 4 5
- ②【午前：横田町奥出雲たたらと刀剣館(神話と鉄に関する歴史と風土、美術刀剣、作刀の実演など)での館内研修 [約1時間]
- 〈自己評価〉 〈コメント〉
- 1 2 3 4 5
- ③【午後：吉田村(鉄の歴史村 [鉄の未来科学館/田部家住宅/山内生活伝承館])での研修 [約1時間半]
- 〈自己評価〉 〈コメント〉
- 1 2 3 4 5

〈2日目〉

- ④【午前・午後：大社町(出雲大社及び周辺地区)での研修 [約4時間]
- 〈自己評価〉 〈コメント〉
- 1 2 3 4 5
- ⑤【午後：荒神谷遺跡・荒神谷史跡公園(出雲の原郷館、竪穴住居など)での研修 [約1時間]
- 〈自己評価〉 〈コメント〉
- 1 2 3 4 5

〈全体〉

- ⑥【上記五つの研修イベント以外(行き帰りのバスの中、食事、その他自由時間)の自由時間]
- 〈自己評価〉 〈コメント〉
- 1 2 3 4 5
- ⑦【今回の研修旅行は“島根県の奥出雲・出雲の古代から中世にかけての日本語文化に関わる民俗資料及び文化資料を、实地踏査し、地域文化を通して専門領域へのアプローチを行う”ことを目的として行なわれましたが、そのねらいは、総合的にどの程度達成されましたか]
- 〈自己評価〉 〈コメント〉
- 1 2 3 4 5

(II) 研修旅行のイベント企画について(企画に対する評価)

(a) 以下の基準で、それぞれの項目の1～5の数字に○(マル)をつけ、評価をして下さい。

1 ひどい 2 あまりよくない 3 普通 4 よい 5 大変よい

(b) それぞれの項目について、できるだけ意見やコメントを書いて下さい。

(1日目)

①【午前：横田町絲原記念館内研修(絲原家の資料、美術工芸品などによる地元文化の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

②【午前：横田町奥出雲たたらと刀剣館(神話と鉄に関する資料、美術刀剣、作刀の実演などによる古代～中世の歴史と風土の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

③【午後：吉田村(鉄の歴史村)の研修(日本及び世界の製鉄産業の歴史と文化の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

<2日目>

④【午前・午後：大社町(出雲大社及び周辺地区)での研修(出雲大社及び周辺地区の地元文化の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

⑤【午後：荒神谷遺跡・荒神谷史跡公園での研修(銅剣、銅鉾などの発掘資料による古代文化の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

(III) 研修旅行の日時・日程・費用・場所について

※それぞれの項目の該当する番号に○(マル)をつけて下さい。

①【3月14日(火)～15日(水)(春休み中)という時期は専攻行事、他の大学行事を考慮して決められましたが】

- (1) 年末・年始を外した冬休み中に実施するのがよい。
- (2) 今回のように春休み中にするのがよい。
- (3) 夏休みの終わりに実施するのがよい。
- (4) 夏休み始めの集中講義終了後(8月7日前後)に実施するのがよい。

②【研修旅行の日程は費用を考慮し1泊2日としましたが】

- (1) 今回のように1泊2日でよい。
- (2) 費用を2万円程度自己負担しても2泊3日ぐらいがよい。
- (3) ♪を3万円 ♪ 3泊4日ぐらいがよい。
- (4) 日帰りでよい。

※（２）～（４）を選んだ人は具体的な研修プランがあれば書いて下さい
[研修プラン]

③ 【研修目的の達成，１泊２日の日程などを考慮し，今回は，「島根県の奥出雲・出雲地区」を実地踏査の場所としましたが】

- （１）今回は奥出雲・出雲地区でよかった。
- （２）福山（備後）地区の方がよかった。
- （３）岩国（周防）地区の方がよかった。
- （４）萩・津和野地区の方がよかった。

※（２）～（４）を選んだ人は理由を書いて下さい。
[理由]

※（１）～（４）以外に１泊２日で研修に行ってみたいあるいは行ってみるとよいと思われる場所や地域があれば書いて下さい。

（Ⅳ）今回の研修旅行は，実地踏査による地域文化の研究を通した専門領域への自主的なアプローチを目的としましたが，この点も含めて研修旅行のあり方について，意見・コメント等を自由に書いて下さい。

（Ⅴ）研修旅行と研修合宿について

※該当する番号に○（マル）をつけて下さい。

【専門領域へのアプローチの方法として，今回のような地元の地域文化の実地調査を一つのきっかけとする研修旅行の他に，地域研究のテーマの実地調査と発表を中心とした宿泊をとまなう研修合宿のようなものも考えられますが】

- （１）費用が安くすむところ（例 広島市内公共施設 １泊２日 3000円）で，研修合宿を全員参加で行う。
- （２）費用が比較的かからないところ（例 広島県内及び周辺 ２泊３日 2万円）で，研修合宿を全員参加で行う。
- （３）費用はかかる（例 京都 ２泊３日 5万円／東京 ３泊４日 7万円）が，研修合宿（旅行）を全員参加で行う。
- （４）全員参加の宿泊をとまなう研修合宿は特に必要ない。

（Ⅵ）研修合宿について，意見・コメント等を自由に書いて下さい。